

災害時の透析医療ネットワークとその活動報告

武田稔男

平成 20 年 6 月 7 日/福島県「第 11 回福島県支部総会」

(社)日本透析医会では、激甚災害発生時、その地域で災害対策本部を立ち上げることができるよう、都道府県を単位とした地域での災害対策確立を呼びかけるとともに、被災地域を後方からサポートできるよう、都道府県透析医会から委嘱された医師および臨床工学技士による災害情報ネットワークを組織している。また、インターネットを利用した情報伝達方法の確立を目的として、ホームページと危機管理メーリングリストを運用している。

●ホームページ

ホームページ「災害時情報伝達・集計専用ページ (<http://www.saigai-touseki.net/>)」に、いつでも施設情報を発信でき、多施設の情報リアルタイムに確認できる、施設情報登録・集計システムを構築した。このシステムで重要なことは、被災を免れた施設からの自主的な情報提供が不可欠であるということである。被害を受けた施設は、外部と連絡が取れるまでに多くの時間を要する。しかし被災を免れた施設は、被災がないことを容易に外部に発信できるはずである。すなわち、被災していない施設からの情報を迅速に収集・集計して発信できれば、被災施設の特定や支援透析の確保に対しても迅速な対応が可能になるはずである。

●危機管理メーリングリスト

大規模災害発生時の透析医療における被災情報、および災害対策の情報共有を目的とした「災害情報メーリングリスト」と、災害発生時あるいは災害発生に備えた対応を検討することを目的とした「透析医療災害対策メーリングリスト」の二つを運営している。

●活動基準

これらは、震度 5 以上の地震、国または地方公共団体が災害救助法を適用するような広範囲にわたる被害発生時に利用することになっており、ここで得られた情報が、厚生労働省をはじめとした公共機関へ報告され、情報、水、医薬品等の提供・要請が行われることになっている。

●これまでの主な活動

2000 年より毎年 1 回、災害情報ネットワーク会議と情報伝達訓練を実施している。また、これまでにホームページやメーリングリストで情報伝達を行った透析に影響のあった災害は、2000 年 3 月の北海道有珠山噴火に始まり、同 9 月愛知県豪雨水害、同 10 月鳥取県西部地震、2001 年 3 月芸予地震、2003 年 5 月宮城県沖地震、同 7 月宮城県北部地震、同 9 月北海道十勝沖地震、2004 年 7 月新潟・福島豪雨水害、同 10 月台風 23 号による水害、同 10 月新潟中越地震、2005 年 3 月福岡県西方沖地震、2007 年 3 月能登半島地震、同 7 月新潟中越沖地震と、実に 13 にのぼる。

●活動から判明した課題

地域により災害対策や情報伝達手段への対応に開きがある。また、ホームページもまだまだ周知度が低く、多くの施設から自主的かつ積極的な情報提供を得るには至っていない。そこで現在、携帯電話の電子メールや Web 機能利用、ホームページのモバイル対応、登録メンバーへの一斉メール配信・集計システム構築、RSS の利用などに向けて活動中である。